

中学校通常学級の英語の授業場面での 集団随伴性に基づく指導 —生徒の援助報告と英単語テスト成績への効果—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 特別支援教育実践系
三矢 美保

本研究では、公立中学校の通常学級 5 学級を対象に、英語の授業場面での集団随伴性に基づく指導の効果を、対象者間多層ベースラインデザインを用いて検証することを目的とした。対象者は、研究Ⅰでは中学校 1 年の 2 学級の生徒であり、研究Ⅱでは研究Ⅰとは異なる中学校 1 年の 3 学級の生徒であった。研究Ⅰ及び研究Ⅱの標的行動を「援助報告」とし、「同じ班のメンバーから受けた声かけの内容をタブレット端末に入力し、先生に提出すること」とした。研究Ⅰでは、BL 期の後に、班全員が援助報告をした班全員に強化子を提示する相互依存型集団随伴性に基づく指導を実施した。研究Ⅱでは、援助報告をした生徒個人に強化子を提示する非依存型集団随伴性に基づく指導の後に、相互依存型集団随伴性に基づく指導に移行した。その結果、研究Ⅰでは 2 学級ともに、指導期に援助報告をした生徒の割合が増加し、研究Ⅱでは 3 学級中 2 学級は、相互依存型集団随伴性に基づく指導期に援助報告をした低成績生徒の割合が増加した。低成績生徒の英単語テスト成績への波及効果は、学級によって効果の現れ方が異なった。今後は、テスト成績への波及効果について、詳細な分析を進める。